



自分たちのまちは 自分たちで守る。

町民が主役の防災活動や、環境保全活動をととして

だれもが安心でき、たすけあうまちを目指します。

「くらし」琴浦町の特徴

1 自助・共助・公助による災害に強いまちづくり

琴浦町に住む人が安心安全に暮らすことができるよう、自助・共助・公助の取り組みを推進しています。地域においては、中心的な役割を担う自主防災組織の結成や集落の防災活動を支援するほか、防災マップを活用して防災意識の啓発を行っています。また、地域住民などで構成される消防団は、火災のほか、水害などの災害に備え、さまざまな訓練・研修に取り組んでいます。

- 自主防災組織の結成・育成支援
- 防災士の育成
- 支え愛マップづくりの推進
- 小学校や地域での防災教育
- 消防団の機能強化

2 環境に配慮したまちづくり

これからもまちの豊かな自然を守り、持続可能なまちづくりを行うため、軟質プラスチックの試験回収や適正なごみ出しの啓発、再生可能エネルギーの推進、小学生を対象としたSDGs啓発活動を行っています。また、ごみの出し方・減量について住民自らが考え、町に提言をする住民会議を実施するなど、まちぐるみで循環型社会への移行に取り組んでいます。

- リサイクル推進事業（資源ごみの分別など）
- じん芥処理（ごみの収集運搬など）
- 環境保全
- 海岸清掃活動
- 小学校でのSDGs啓発授業



①自主防災組織の皆さん ②小学生による海岸清掃の様子 ③地域での防災訓練の様子
④木育教室で木のおもちゃづくりをととして環境について学ぶ小学生

これからの琴浦町

町民が安心安全に暮らし続けられるまちを目指し、地域の安全は地域で守れるよう、防災意識や取り組みの強化を行っていきます。また、自然豊かで住みやすいまちを守るため、国の目指す「2050年温室効果ガス排出量実質ゼロ」、世界的目標である「2030年SDGs目標達成」に取り組めます。プラスチックを含む資源の循環（サーキュラーエコノミー）、町民とともに取り組むごみ減量（4R推進）のほか、地域新電力会社による再生可能エネルギーの普及推進など、SDGsの基本理念である「環境・経済・社会」の3側面に配慮した取り組みを進め、持続可能な循環型社会を目指します。

